

日 月 日 期

パチンコやパチスロをやめたくてもやめられない「ギャンブル依存症」に悩む人や家族を支援しようとして、パチンコ業界が4月、専門の相談機関を設立する。電話相談のホットラインを設けるほか、相談員を各地で育て、回復支援プログラムの開発にも取り組む。ギャンブル性の高い機械の導入などを背景に増えていると言われる依存患者の救済に、業界自らが乗り出す。

パチンコ依存 相談機関設立

業界団体、回復支援へ全国組織

依存症支援にはこれまで、各地の相談機関などが個別に当たってきたが、全国的な組織による取り組みは初めて。

設立されるのは「ぱちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」で、全国のパチンコ店をつくる全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）が5年間で1億円を出資する。代表には薬物依存治療に詳しい精神科医、西村直之

ホットライン 4月開設

さん(40)がつき、カウンセラーや弁護士が運営にあたる。事務局は西村さんがクリニックを開業する沖縄県西原町に置く。健康の問題や借金の返済法などの相談をホットラインで受け付け、必要に応じて各地の精神保健福祉センターや自助グループ、司法書士を紹介する。各地のソーシャルワーカーらに依存症特有の問題を学んでもらい、機関認定の相談員に育成。

事例をデータベース化し、依存症回復のプログラムづくりもする。

専門医らによると、ギャンブル依存の患者は近年増加傾向にあり、全国に100万〜150万人いると推定されている。家庭生活や社会生活が破綻するケースも多い。

電話相談は4月19日から。詳細は同ネットワークのホームページ（<http://www.geocities.jp/rsnokhinawa/index.html>）3月上旬開設予定）で。（佐藤陽）